

子どもたちがVRや制服試着で自衛隊を体験



VR体験

富士所は、今後も地域のイベント等で自衛隊の活動や魅力を発信するとともに、身近に感じてもらえるような広報活動を行っていく。

また、「なぜ（陸海空の）迷彩服の色が違うの」「幸せな瞬間は何ですか」などブースを訪れた小学生からの質問コーナーが始まり、地域住民と触れ合うことで自衛隊をPRする貴重な場となった。

特にVR体験には多くの来場者が訪れ、ヘリコプターからの降下や水陸両用車の試乗を映像で疑似体験し楽しんでた。

富士所は、「地域のくらしを守る自衛隊」として展示を行ってほしいという依頼を受け参加した。会場入口にデジタルサイネージを設置し、自衛隊のオリジナル動画を流して集客するとともに、広報ブースでは迷彩服の試着体験やVR体験、自衛官採用制度説明、広報グッズの配布などを行い、会場を盛り上げた。

このイベントは、地元の文化・歴史を楽しもう！をテーマに開催され、和菓子作りや溶岩染め、地元の伝承踊り「富士ばやし」の体験などが行われた。

自衛隊静岡地方協力本部富士地域事務所（所長・本間亮2等陸尉）は4月16日（日）、静岡ガスイネリアショールーム（富士市）で開催されたイベント「J・M・Oトリップ」に参加し、広報活動を行った。



制服試着

地域住民に防災講話を実施



自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・有吉将人1等空尉）は4月17日（月）、袋井市豊沢ふれあい会館で開催された令和5年度第1回ふれあい・いきいきサロン交流会の場において、防災講話を実施した。

これは袋井市社会福祉協議会が主催したもので、午前と午後各1回ずつ行い、それぞれ地域住民40人以上が聴講した。

広報官の菊地貴文2等陸曹が講師を務め、自衛隊が行う災害派遣の仕組みや災害において普段から備えておきたいもの、県内で発生した熱海市の土石流災害や静岡市清水区の大雨に係る災害派遣活動について説明し、自助・共助・公助の役割を伝えた。

参加者は「防災には知識や普段からの訓練が必要で、この講話を通じて災害が決して人ごとではないと強く感じた」「もし災害が起きたら、自分の地域の対策はどうなっているのか、身近な問題として捉えることができた。常に迅速に動ける自衛隊のすごさと、災害時の心強さを感じた」と感想を話していた。

袋井所は、今後も防災講話などを通じて地域の防災意識の向上を目指していく。